

JIA 建築ワークショップ@豊橋 「お店をつくろう! ~小さなまちづくりプロジェクト~」



授業風景



会場風景

豊橋での建築ワークショップは、昨年のコロナ禍による中止から2年ぶりの開催。新学期早々、両小学校からの「今年は開催したい」との連絡があり、3年生の絵画、4年生と5年生の工作のレクチャーのほか、夏休みに体育館で行っていたサマースクールにかわり、通常授業時間を使ってその分を補うことになりました。穂の国とよはし芸術劇場 PLAT・アートのスペースでの展示は、これまで通り、去る9月3日(金)～5日(日)の展示。残念ながら、表彰式と講評会は延期することになり、アートイベント Sebone の12月初旬の延期開催予定に合わせて実施する計画です。

「お店をつくろう!」については、「建築家+」第2号の『子どもと建築』をテーマとするなかで、特集記事として掲載しました。記事の中で登場する(我が)娘が大学に進学し、リモート授業で豊橋に帰省中、会場設営などを手伝ってくれました。16年前から始めて、今回で15回目の開催となりますが、スタート時の6年生は既に社会人に、1年生も二十歳を越える年齢になっています。いつか、「私、お店をつくろう! やりました! 手伝いさせてくださいっ!」って子が現れないかなあ、と思っておりました。「お店をつくろう!」経験者である娘のお手伝いを密かに悦んでおります。

今年度、嬉しいことのひとつは、9月20日に名古屋が開催地となった日本建築学会全国大会2021において、「子ども教育支援建築会議・楽々建築・楽々都市@名古屋」というセッションで地域での実践事例のひとつとして取り上げていただいたことです。『建築教育じゃ学べない!

子どもとケンチクから考える学びの多様性』のタイトルで、鈴木賢一先生(名古屋市立大)と田口純子先生(名城大)の司会によりオンライン会議形式で行われました。お菓子で建築をつくるワークショップを開催している吉橋久美子さん(Edible Arch.)でも取材した豊田市・あさひガキ大將養成講座の『さくら村ツリーハウス』の安井聡太郎先生(名城大/子ども建築デザインネットワーク)と共に発表をしました。

参加のきっかけは、田口先生(=ご本人は「先生」NGとされるが、あえて-)が名古屋へ赴任され、専門会員としてJIA愛知の事業委員会に所属していただいたことにより、東海支部が担当しているゴールデンキューブ賞(GC賞)運営関係者、建築学会教育委員会子ども教育ワーキンググループメンバーへの声掛けにより、『建築と子ども勉強会(仮)』というオンライン(目下のところ)での勉強会に加えていただいたことによります。

主催：日本建築学会 子ども教育支援建築会議
子ども教育支援建築会議
黒野 有一郎(愛知) 事業委員長

「建築教育」じゃ学べない!
子どもとケンチクから考える
学びの多様性

2021年9月10日(金)
14:00～17:00 オンライン開催
(Zoom)

第一部 質疑応答
1.「お店をつくろう!」小さなまちづくりプロジェクト
黒野 有一郎(一級建築士事務所建築クノノ/JIA 愛知理事)
2.「お菓子こうむてん」 西橋久美子(Edible Arch.)
3.「さくら村ツリーハウス」 安井聡太郎(子ども建築デザインネットワーク)

第二部 質疑応答とディスカッション
「UIA 子どもと若者のための建築教育憲章」とは?
黒野 有一郎(名古屋大学)
田口純子(名城大学)

申し込み
https://bit.ly/3c4ZGVy

日本建築学会フライヤー

田口先生のミッションであるUIA「子ども・若者のための建築憲章(仮)2019年版」の日本版翻訳の作業にあたり、原文和訳の読み解きと、それをいかにわかりやすく建築教育の場面で使えるものにするかというテーマに、月イチペースの議論は毎回とても刺激的です。

9月の建築学会でのプレゼンを第1タームとして、年度後半に向け、憲章日本語版の完成と合わせて、「10のメッセージ」をまとめるべく、さらに議論を進めます。まだまだ道のりは長く、山は高い。

コロナ禍での一年休止や、完全なカタチでの実施が叶わない状況のなか、永らく続けてきた地域の子もたちへの活動が評価され、JIA、建築家の皆さんのお力添えを得て、少しずつ浸透して、広がっていくような感覚を今回は持つことができました。事業委員長に推していただき、2年目となりますが、コロナの影響で事業委員会がこれまで積み上げてきたイベントやワークショップもことごとくできない状況です。まだまだ予断を許しませんが、「コロナ時代(With コロナ)のやり方」を考えていかなければいけません。

黒野 有一郎 (JIA 愛知)
事業委員長

